

発達する低気圧に伴う大雨・暴風に備えて

平成25年4月5日
北海道農政部

気象庁の発表によりますと、7日から8日にかけて、発達する低気圧が前線を伴って北海道付近を通過する見込みです。

このため、北海道地方では太平洋側を中心に大雨となり、気温も高く、積雪が平年より多い所では雪解けが進むことが予想されます。大雨や融雪による河川の増水やはん濫、低い土地の浸水、強風に警戒してください。

つきましては、今後の気象情報に十分注意し、風雨が強くなる前に次の事項の徹底に努めてください。

第1 大雨対策

- 1 低地や排水不良地など大雨により滞水が心配される場合は、あらかじめスコップ等で、明渠や排水溝へ排水できるよう溝を掘っておく。
- 2 ビニールハウス・農舎・畜舎・サイロ・飼料庫等に水が入り込む恐れがある場合は、施設の補修のほか、施設周辺に排水溝を掘り、土のうを積むなどの対策を行って施設への浸水を防ぐ。また、ビニールハウス周辺の排水溝が浅くなっている場合は、ハウスのすき床面より低く掘り下げるなどの排水対策を講じる。ビニールハウスのボイラーや移動できる機械類は可能な限り高所に移し、浸水を避ける。
- 3 畜産等の堆肥場や尿溜に入った雨水が流出する恐れがある場合は、土盛りなど行い河川への流入を防ぐ。
- 4 ロールバール乾草やラップサイレージは、滞水の恐れのない場所へ移動する。

第2 ビニールハウス等農業施設の暴風対策

- 1 ビニールハウスや、農舎・畜舎などの屋根や壁の点検・補修を行い、風雨による被害を防止する。風雨が強くなってからの点検・補修は危険なので、必ず事前に行う。
- 2 作物が作付けされていないハウスは、ビニール等はずしておく。
- 3 既設の防風網は点検整備を十分に行い、突風がおこりやすい場所には応急的に防風網の設置を行う。
- 4 ハウスバンドを固定するアンカー杭が浮き上がっていないか確かめ、修正しておく。
- 5 ハウスの筋かいが緩んでいればしっかりと締め付けるが、緩んでいるところだけを締め付けると周囲の筋かいが緩むので、ハウス全体の筋かいが均等に締め付けられるように調節する。また、ハウス中央部に支柱を設置し暴風雨に対するハウス強度を高

める。

- 6 ハウスの出入り口、天窓、側窓、換気扇及び側面のフィルム巻上げ部などの開口部が、きちんと締まっているかチェックしておく。
- 7 ビニールフィルムが強く緊張するように、ハウスバンドをきつく締めておく。
バンドレスの場合は、フィルムを均等に緊張することが難しく、強風でフィルムがバタつくとフィルムが破れやすくなるので、妻側端部及び適当な中間部に防風ネットを張り、バタつかないようにする。
- 8 被覆資材が破れ、風がハウス内に吹き込むとハウス内の圧力が非常に大きくなり、ハウス全体が大被害を受ける。飛来物によるハウスの破損がないように、ハウス周辺の飛散しやすいものを片付けておく。
- 9 屋根ビニールをはずすなどして風を逃がし、ハウスの倒壊を防ぐ。

第3 停電・断水対策

- 1 停電・断水の恐れがあるので、特に畜舎では発電機の手配、自家発電機の試運転、発電能力と使用する施設・機械の必要電力の確認、給水タンクの手配などの対策を事前に行う。懐中電灯の常備や、畜舎・施設などの小道具の置き場所を家族で確認し、夜間の停電下での突発的な人身事故に注意する。また、畜舎内の清掃・整頓を徹底し、保管中の生石灰が雨で発熱し、火災にならないよう注意する。
- 2 酪農場で停電した場合
 - (1) 停電で搾乳が不可能な場合、牛舎への出入りは必要最小限にし、牛に搾乳刺激を与えない。また、給水制限すると同時に濃厚飼料の給与は控える。
 - (2) 通電後、直ちに搾乳する。ただし、前搾りを行い凝固物（通称ブツ）の有無を確認し、罹患している場合は治療する。
 - (3) 牛の体調を確認して、異常牛はすみやかに獣医師の診察を受ける。
 - (4) ミルカーなど電気を動力源とする機械は、通電後正常に作動するか速やかに点検する。

お問い合わせ先：生産振興局技術普及課(電話 011-231-4111 内線27-823)